

金山小学校の裏山における地質調査の結果について

令和7年4月

令和6年7月に発生した豪雨災害（学校プールへの裏山からの土砂流入）により、安全確保対策の一環として行いました地質調査の結果は、次のとおりです。

《安定解析検討結果》

調査を行った校舎裏、体育館裏ともに、平常時は問題のない判定結果になりました。

また、令和6年7月の大雨を想定した状況でも土砂崩落の可能性は低いという結果です。

なお、地すべり計（校舎裏、体育館裏それぞれに設置）は今後も継続して設置し、一定基準の地盤の動きを観測した場合（職員室と体育館で警報音が鳴ります）に、安全を確保しながらスムーズに避難できるよう、避難訓練等を行いながら対応を図ります。

これからも、児童および教職員の安全を保持しながら施設管理および学校運営に努めてまいります。

《判定理由（基準）》

1 校舎裏

① 平常状態（現況）

安全率： $F_s = 1.433 > 1.20 \Rightarrow \bigcirc$ （地盤の安定性に問題なし）

② 飽和状態（数十年に一度規模の大雨を想定）

安全率： $F_s = 1.032$ （ $1.00 \leq, \leq 1.20$ ） $\Rightarrow \triangle$ （崩落の可能性は低い）

2 体育館裏

① 平常状態（現況）

安全率： $F_s = 1.251 > 1.20 \Rightarrow \bigcirc$ （地盤の安定性に問題なし）

② 飽和状態（数十年に一度規模の大雨を想定）

安全率： $F_s = 1.014$ （ $1.00 \leq, \leq 1.20$ ） $\Rightarrow \triangle$ （崩落の可能性は低い）

《安全率（ F_s ）の目安》

安全率（ F_s ）	目 安	判 定
$1.20 <$	地盤の安定性に問題なし	$\bigcirc$
$1.00 \leq, \leq 1.20$	崩落の可能性は低い	$\triangle$
< 1.00	地盤が崩落する可能性が高い	$\times$

※ F_s （factor of safety）：滑動力（すべろうとする力）と抵抗力の摩擦抵抗の比率